

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 12 号

発行日
2023. 9. 30
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○知り過ぎる、分かり過ぎることはいいことか!!

さて、このことも、もう随分前から思い続けていたことであるが、それぞれの人生において、世界情勢や国内における様々な事件・事故等（その中には、いわゆる醜聞や闇の世界の出来事?も入っている!）を、これでもか、これでもかという形で、知り過ぎる、分かり過ぎる（ある意味知らされる?）ことは、本当にいいことなのかどうか!!

そんなことを思ったりもしてきたわけであるが、単純に言えば、知らない（分らない）方が、むしろ幸せなのではないかということである!! そんな馬鹿なという人も、もちろん多々いるであろうが（過剰な?「知る権利」を主張する人々や、いわゆる「愚民政策」として批判する人々は、ここではともかく!!）、そこにある無力感や絶望感が、何とも哀しくて仕方がないということである（そっとしておく、分かる時に分かれればよいというようなことでもある?）!!

改めて、こんなことを言えば、それこそ「庶民」を愚弄しているとか言われそうだが（自らも庶民なので何とも言えないが?）、要は、気がつけば、知らなくとも（分からなくとも）よいもので、実に嫌というほど、見せつけられているということである!! 何のために?

それは、内外の情勢（沖縄のこと?）であれ、宇宙や自然界、そして人間（人体含む!）のことであれ、膨大な情報に晒され、その解釈、反応（納得?）に、アレルギーさえ起こしてしまっているのではないかということでもある（科学やITの発展が、それに拍車をかけている?）!!

○ミッション（任務?やりがい?生き甲斐?）に想いつ!!

先程、某銀行の○○さんから、突然の電話があった! 予期せぬ?転勤（職場移動?）で、来月から担当を離れることになるので、一度挨拶に来たいということであった! 同銀行の、言わばありふれた顧客対応の一環かもしれないが、ただ、そればかりではなさそうな感じでもあったので、いささか感動を禁じ得なかった!!

とは言え、結局は、そこまでする必要はないですよというところで、丁重にお断りしたのであるが、それとは別に、ここで俄かに思ったことは（余計なことであったが?）、彼女が、どういう思いで、その仕事（銀行員）をしているのか?ということであった!

というのも、丁度昨日（19日）、我が奥さんが深夜見ていた、「転職」をサポートする仕事をしている若者達のドラマ（題名は覚えていないが! 偶に、歯磨きをしながらチラ見している!）のことが、頭を過つたのである!!

折しも、先日終了した「vivant」とも関係するが、仕事とか、ミッションというように、今更ながら、少し関心を向けているので、彼女には、少々（かなり?）迷惑であったかもしれないが、今日眺めていたネット記事の、教員の仕事とかミッションのことも含めて、考えた次第だということである!

要は、「vivant」でのミッション（この場合は任務）については、少々荷が重いので、これ以上書きたくはないが、人は、折角人として生まれてきたわけであるので、自らの生活や仕事を、ある意味でのミッションと捉えていければなあ、改めて思ったということでもある!!

○私（達）は、今なお（永遠に?）「遅れている」!!でも:

ところで、先号（11）で、私（達）の世代には、「○○世代」というような、言わば、その時代を表象するような冠が着かない（強いて言えば、戦後復興の「端境期の世代?」）ということ、多少自虐的に?書いたが、今回は、それを武器に?（ただ単に年を取ったということでもあるが?）、その「端境期の世代?」というところで、全く私的な世界ではあるが、それを語ってみたい!

すなわち、我々の世代（「端境期の世代?」）が持っている（持たされている?）、かの「高度経済成長期前後の意識や感覚」が、今、どのような状態になっているのか?そういうことでもあるが（細かいところは、何とも言えないが?）、今、目の前にある、それぞれの現実（実体?）の、言わば構図（全体像?）みたいなものが見える（分かる?）!! しかし、それが故に、自分の人生、生き方に、その構図（全体像?）が、うまく取り入れられていないということでもある（まさに、「マージナルマン?」）!!

言い換えれば、こんな私（達）の世代意識や人生談義とは無関係に、世の中は動いている（しかも激変している?）!そして、新たな危機や不安要素が増大している!!まさに、その意味で、相変わらず、私（達）は、「時代の端境」に位置しているのかもしれない!!だから、私（達）は、「今なお（永遠に?）、遅れている?」!!そういうことであるのかもしれない!!

かなりの抽象で申し訳ないが、私（達）は、ある時代の端境期の中で生を受け、頑張り、そして、年を取ってきたのである!私（達）は、その時代の空気（もちろん物質的なものも含めて!）を、あるがままに吸い、そしてそれを、我が子を含めて、次の世代に伝えてきたのである（生者としての当然の営みであるが!）!!

（井上）

『与えられた正義(自由・平等・博愛+平和)』!!

ということ、今回もまた、表面のI氏の書きモノに誘われて、かなりヘビーなものになるかもしれないが、今有している正直な思いを、ここでは、堂本としての立場から、改まって綴ってみたい!それは、標記のことと関係するが、次から次へと発生する、世の内外の事件・事故、不幸に対して、その原因・構図が、何ともやるせないものであるということである!!

つまり、ある特定の人間、特殊な国家だけが、その原因・構図を成しているのであれば、それはそれで、その対処法もあるであろうが(ただし、それさえも、現実には難しいのも事実↓現今のウクライナ情勢!)、あの「国連」さえもが、何の手立ても出来ずにいる(その限界がどこにあるのかということも、今回改めて知らされた!)!!

本当は、分かりたくなかった!しかし、今の時代は、そういう訳にもいかない?そういうことである!しかも、出来るなら、こうして欲しい、こうあつて欲しいと思うのであるが、一方でまた、その原因・構図故に、心を痛めることはあつても、自らではどうしようもない状態となつていく!そのジレンマが、そこにあるということであるが、だから、学生時代に一時流行つた?「偽悪」という思いや行動も、ほとんど意味を成さない!!

しかも、それら「与えられた正義」さえも、ある国、ある人達にとつては、自らのものとなつてはおらず、それを獲得、ないしは回復すべきものとして、今もなお、彼らの現実の上を浮遊しているとも言える!!何と厳しい(哀しい?)現実なのであるうか!!

とにかく、冷静に言えば、かの「自由・平等

等・博愛+平和」という観念は、我々の世代にとつては、言わば「与えられた正義」であつて、

自らが苦勞し、勝ち得たものではない!それらが軽いものと言うことはできないが、その新しい現実態を、自らが、ある意味汗水流して創出していかねばいけない?そういうことなのかもしれない(ただし、それは、決して「誰かの犠牲(死)」によつてもたらされるものであつてはいけない!)!!

それもまた、別途述べたように、分かるようになったがためにそう思うのであるが、自分が持つている価値観や経験値では、如何ともしがたい!!また、そういうものを生かす場や関係が消失している!!もちろん、それが「老いる」ということでもあるが、単なる世代間の違い(ある意味では宿命?)で終わらせてしまつてはいけない!!そう思いながら、今現在でもあるということである!!

〈短歌に託してゝ気持ちだけでも、迎えつつある秋!!〉

・知り過ぎる 分かり過ぎることは

よいことか? それもこれも 己次第!!

・ミッシヨン 上からののは 複雑だが

見つけたものなら それは貴重!!

・我が世代には 二重の遅れ?

だが今となつては それが糧!!

・与えられた正義? たとえそうであつても

大切なものは 大切なのだ!

・逆転の発想? 実はそれは必然のこと!

何故ならそこに 真実ある故!!

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕⑩

○逆転の発想?が必要!「記紀」編纂の舞台裏!!

そこで、改めてであるが、記紀編纂側(当時の政権)は、そのような古代史の真相を知つて(分かつて)いた!!だから、彼らの、編纂(こゝでは『日本書紀』)の課題意識は、如何にそれを、自らが都合の良いものにするかであつた!!つまり、ある意味「最初から」、そこには「用意されたストーリー(の骨格)」があつた!!そういうことである!!

すなわち、書記編纂の基本原則(藤原氏・持統天皇の正統ノ正当性の主張が、そこにはあつたということであるが、そこに、各地・各様の古文書や言い伝え等を材料として(重要氏族の家伝や、収集した「風土記」等を利用して)もちろん、そうしなければ、枝葉は描けない!!、大きな物語を創り出したということである(「神話」の創作・架上げ、その大きな武器となつた?)!!

ただし、直接の『日本書紀』記述者(原案作成者)は、自らの矜持(ego or 怨念?)でもつて、どこかに、その真実(虚実?)を伝えようとした(例えはわざと「あり得ない話」を挿入するとか?怪げな「謎かけ」を行うとか?)!!また、一方の『古事記』は、それ以上に(これだけは真実を伝えたい!だが露骨な反逆は避けたい)、誰か(おそらく「多(タ)氏」?)が、密かに別途用意したものであつた(だから、本当は「記紀」という括りは間違ひである!)!!

ということ、こうした史実解明の視点は、まさに「逆転の発想?」と言えるが、知れば知るほど(私の場合は、手に入る 一部の研究成果あるいは論者の知見からかもしれないが)ただし、それは、自分で言うのも烏合がましいが、かなりの量であるとは言ふまでもない!!、そう思えてくるのでもある!

要は、そのように見れば、これまでの多くの矛盾や謎?が、不思議なくらい鮮明に見えてくるということであるが、特にこゝでは、この「記紀」が隠そうとした、いわゆる「倭国大乱」前後の状況、とりわけ北部九州の状況が、実際は、どのようになつていたのか?そこを明らかにしなければいけない!そこに、「記紀」が暗示している、そして、編纂者達が、そこから繰り広げられてきたと認識している、つまり、そこがスタートであると考えられた、今現在(当時)の状況があるということである!!(堂本)〈編集後記〉9月末、少しは涼しくなつてきたので、これからは、大いに外に出たい!そして、運動(ただし、ジョギング程度?)もしたい!出来れば、県外への旅もしたい!果たして、どうなるか?古代史の方は、新たな旅枕のネタも欲しい! (井上ノ堂本)